



今年の教区の目標

平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2026年5月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第810号 (5月号)



石川教会 主任
紙崎 新一 神父

2026年 那覇教区 教区目標を巡って

聖書には600以上の掟が記されています。それを主イエスがたった一つにまとめて実行するよう命じた掟、『南の光明』を読んでくださっている貴方ならご存じでしょう。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 15:12)。「あい」こそ大切ですね。

そのキリスト信者同士が数年前に戦争始めたかと思うと、西洋カルタの名で有名なキリスト信者が今度はイスラム教徒に戦争しかけて大変になりました。

ところが、どういうわけか、ここ数年で「あい」がキリスト信者に限らず世界中に広がって、しかも多くの人を助けているってことはご存じですか? 「あい」が信じられないくらいスピードで世界中に広がっているなんて、とっても素敵なことではありませんか? でも、「あい」、哲学では、エロース、フィリア、アガペーなど。この「あい」がどんな「あい」か、文字変換するとよくわかるそうなんです。「アレクサ、あいをローマ字に変換して」「はい、あいをローマ字に変換すると、AIです。」「アレクサ、世界中で人助けしてるってホント?」「ほんとうです」「じゃアレクサ、わたしの原稿、代わりに書いて?」「もちろん手伝いますよ。では、どんな原稿を書けばいいか教えてください?」ウム。自分でしろってこと? わたしが教えて欲しい。「じゃ、これ聞いてみよう。『平和は聖なるもの 神のみ旨 絶えざる和解の旅』これ、那覇教区の今年の目標です。内容はとってもいいのですが、目標の立て方としては、よい目標? 悪い目標?」「はい、内容はとてもいいのですが、「立て方」としてはやや不十分、悪い目標寄りです。」あれ、AIも付度するようですね。

さて、那覇教区の今年の目標「平和は聖なるもの 神のみ旨 絶えざる和解の旅」は、その内容自体は非常に優れたものです。しかし目標の立て方として見ると、やや抽象的で、実践に結びつきにくいので、具体的な行動へ落とし込む工夫が必要です。

一般に、目標設定にはSMARTの法則(具体性、測定可能、達成可能、関連性、期限)が有効とされ、何をいつまでに行うかを明確にすることが重要です。そこで本稿では、信徒の使命である「典礼(祭司職)」「信仰生活(預言職)」「社会への奉仕(王職)」の三つの柱に基づいて、目標の具体化を試みました。

まず「典礼」においては、主日のミサが平和への対話と和解の場とすることが重要です。回心の祈りで「神と兄弟姉妹と対話に向かい和解の場となるよう」導き、説教の中で神と人との和解を意識づけること、平和の挨拶を形式的にせず時間をかけ、具体的な赦しと関係の回復への第一歩となるよう多くの人と心を込め行います。また、「平和に向け対話と和解を促す」ミサになるための意見と今日のミサは目標の何%か記入する意見書箱の設置や講話の実施、アンケートによる振り返りを通して、ミサの理解と参加意識を深めていくことも有効でしょう。

次に「信仰生活」では、みことばに根ざした生活が不可欠です。一人ひとりがMy『聖書』を持ち、年間を通して新約聖書は通読すること、さらに分かち合いを通して信仰を深めることが大切です。分かち合いを導くファシリテーターの養成は急務です。また、待降節や四旬節における赦しの秘跡の積極的な活用や、信徒同士の対話の場の設定により、和解を具体的に生きる機会を増やす必要があります。これらは最終的に福音宣教へとつながっていきます。

最後に「社会への奉仕」として、地域に根ざした奉仕活動を定期的に行い、隣人愛を具体的に実践することが求められます。共同作業を通して互いに支え合う経験は、教会共同体の一致を深めるとともに、社会への証しともなります。

これらの取り組みを本来であれば年度内に実施し、評価と改善を行うことが理想ですが、現実にはすでに年度が進んでおり、組織的な確認と整備も十分とは言えません。これはむしろ、単年度での達成を目指すのではなく、5年あるいは10年といった中長期的な計画としてもう少し緩やかなかたちで段階的に実行していくことが現実的でしょう。

目標が単なるスローガンにとどまるのではなく、具体的な行動として根づくとき、教会はより生き生きとした共同体となります。そして、その歩みの中でこそ、「平和は聖なるもの 神のみ旨 絶えざる和解の旅」という言葉が現実のものとなっていくのではないのでしょうか。若者が集い、宣教に向かう教区の姿も、その先に見えてくるに違いありません。

The Gift of Peace and the Journey Within . . .

Sr. Rochelle Caminse, OND



Peace is holy because it comes from God, who is the source of all goodness and harmony. It is not something we can fully achieve by our own strength and effort. While we may try to create calm around us, true peace begins within our hearts, where God quietly dwells.

This peace is more than a passing feeling or a moment of silence. It is a deep and steady assurance that we are not alone—that we are loved without condition, guided with wisdom, and held with care in times of uncertainty. It remains even when life is difficult, gently reminding us to trust, to surrender, and to rest in God's presence. In this way, peace becomes sacred. It shapes how we see others, how we respond to challenges, and how we live each day—with humility, patience, and hope. The will of God is always directed toward our good. It gently leads us to healing, forgiveness, and right relationships—with Him, with others, and within ourselves. His will is not meant to burden us, but to guide us into a life that is whole, free, and deeply rooted in love.

Yet, we often resist His will. Our fears hold us back, our desires pull us in different directions, and our personal plans make us want to remain in control. We hesitate to surrender because we do not always trust what we cannot fully see or understand.

In this resistance, we begin to feel restless, and a quiet tension grows within us—a sense that something is not aligned.

It is in these moments that we are invited to pause, to pray, to listen, and to trust in God. For when we begin to trust His will, even little by little, the restlessness within us slowly gives way to peace. When we choose to trust God and follow His will, a change begins within us. Even amid difficulties, we experience a sense of stillness. This is the peace that is holy—God's presence bringing order to confusion and calm to fear. It is a sign that we are living in harmony with Him.

Peace is not something we receive once and keep forever. It is a constant journey of reconciliation. It is lived out day by day, in small and quiet choices that draw us back to what is true and good. Each day, we are called to return—to reconcile with ourselves by accepting our weaknesses, limitations, and brokenness with humility; to reconcile with God by seeking mercy and forgiveness; and to reconcile with others through compassion and understanding. This journey is not easy. It requires honesty, patience, and a willingness to begin again.

In this daily striving, we are slowly renewed. God meets us not in perfection, but in our openness to be changed. As we allow His love to restore us, we begin to experience a deeper peace—one that grows within us, steady and faithful, even as we continue the journey. This is why peace is a journey. It is not found in a single moment, but in the daily choice to begin again. Each day, we are invited to choose love over indifference, forgiveness over resentment, and trust over fear. These choices may seem small, yet they shape the direction of our hearts. In choosing love, we open ourselves to others; in choosing forgiveness, we allow healing to take place; and in choosing trust, we place our lives gently into God's hands. Peace then grows quietly within us—not as something forced, but as something lived. It deepens each time we say "yes" to what is good, and each time we return, even after we fall. In this way, the journey itself becomes a path of grace, leading us closer to a life rooted in love and lasting peace.

As I come to this moment of farewell, I carry with me the peace that God has gently formed in my heart throughout this journey. Saying goodbye is never easy, especially to a place that has become a home and to people who have become part of my life and mission. There is a quiet sadness in leaving, yet it is also filled with deep gratitude. I thank God for the gift of this mission, for the opportunity to serve, to learn, and to grow. I am especially grateful to the Diocese of Naha for the trust, support, and opportunities given to me. Through this experience, I have been blessed not only to share but also to receive—to learn the language, culture, traditions, and the simple yet profound faith of the people. To the faithful people I have encountered, thank you for your warmth, kindness, and generosity. Your simplicity of life, your prayers, and your quiet acts of love have touched my heart deeply. In many ways, you have taught me what it truly means to live in peace and trust in God. As I leave, I bring with me not only memories but also the lessons that have shaped me. This mission has strengthened my faith, deepened my understanding, and helped me to grow in patience, humility, and love. Even in moments of difficulty and uncertainty, God's peace remained—a steady presence that guided and sustained me. This goodbye is not simply an end, but a continuation of the journey God has prepared for me. I entrust everything to Him, trusting that His will is always good and that His peace will continue to lead me wherever I go. Though I may be leaving physically, I remain united with you in prayer. The peace that we have shared in this mission will always stay in my heart. With gratitude and hope, I say goodbye—carrying with me the gift of peace and trusting in God's faithful love for us all.

2026年4月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2026年3月31日(火) 15:00～17:00 於・安里教区センター

開式の祈りはウェイン司教が担当、司会はヨアキム神父が担当した。

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(3月会議)の報告を新田が行い、議事録に表記の修正と表記漏れの指摘があり、①枝の主日→受難の主日に改める。②教区の日のあり方は、継続審議と表記するよう訂正が求められ、修正の上、承認された。
- ・司教、司祭の不在予定が伝達された。
- ・サマーキャンプの予定について、ブイ神父から報告が行われた。今年のサマーキャンプのテーマは「聖フランシスコと共に平和の道を歩む」とすることが報告され、青年たちと協力して準備を進め、6月中旬頃にはポスターや案内状、申し込み用紙を各小教区宛配布していくことが報告された。サマーキャンプについては、教区として予算化されていることも確認された。
- ・聖香油ミサ(4/1)について、マイケル神父から典礼における役割分担と準備状況が報告され、司祭たちへの協力が求められた。
- ・聖週間の典礼、特に入信の秘跡について、司教から司祭たちに確認が行われた。通常の成人の入信の儀は、聖土曜日の復活徹夜祭のミサの中で、洗礼・堅信・初聖体を行うこととされており、入信の前段階として、四旬節中に必ず入門式や洗礼志願式を経て行われることが条件となる。入信前に教会共同体の仲間として公的に紹介し、共に信仰の道を歩みだせるよう工夫することが求められた。また、入信の儀以外の場面で堅信の秘跡だけを執行できるのは、司教のみに与えられた権能であるので気を付けるよう指摘があった。
- ・3教区合同黙想会について、指導をお願いしている酒井司教から、例年通りで良いのか、何か提案があるのかの問合せがあり、司祭たちにも意見が求められた。紙崎神父からは、折角の沖縄開催なので平和学習を取り入れた黙想会にはどうかとの意見が寄せられたが、3教区合同で行っている黙想会なので、大きな変更は難しい所もあり、指導をお願いした酒井司教と協議しながら、従来のあり方を踏襲しつつも新しい展開を取り入れて行きたいとの意向がウェイン司教から述べられ、審議を継続することとした。
- ・司教協議会典礼委員会から、復活のローソクの祝福の試用版と祝福の言葉が提示されているので、必要に応じて HP 確認するよう案内が行われた。
- ・マーシーさんからカリタス沖縄の傾聴活動のポスターが配られた。各小教区に掲示して、必要とされている方々に周知されるよう要請が行われた。
- ・教区会計から、年度末の3/31に小教区の会計を締めて、教区に報告すること、その際には3/31付の預金残高証明書を添付し、4/10までに提出されるよう要請があった。合わせて、教会会計に記載されない教会名義の資金を持つことは、宗教法人法に抵触する行為となるので、気を付けるよう確認された。
- ・カトリック司教協議会および中央協議会の組織再編に伴い、各委員会も再編され名称の変更等が行われた。正義と平和協議会などは、社会司教委員会の下に『いのち・平和・人権委員会』に集約されている。HP等を確認し、全教会の動向にも関心を持っていただきたい。そして、今後教区内の組織についての見直しについて、その必要性も含めて参考にして頂きたい。

2. 審議事項

- ・司祭助祭拡大会議の前の祈りの持ち方については、意見集約に至っておらず、次回以降に継続審議とする旨報告された。
- ・司教予定が報告された。4/1(水)、聖香油ミサ—安里。4/2、3日、聖週間典礼—コザ教会。4/4日、復活徹夜祭—開南教会。4/5日、復活の主日ミサ—具志川教会。
- ・戦後80年の区切りを超えた6/23慰霊の日について、ウェイン司教から提案が行われた。早朝ミサと巡礼は例年通り行うが、高齢で巡礼に参加できない方々が増加しており、これまでの平和巡礼を中心に据えたプログラムとは別に、午前9時から安里教会でミサを捧げて後、正午前に魂魄の塔に移動して巡礼団と合流し、平和祈念集会を執り行う方向が提案され、司祭たちに意見が求められた。様々な意見が出され討議したが、期日も迫っていることから今年までは、従前の小祿での早朝の平和祈願ミサと平和巡礼を執り行うこととした。いずれにせよ、大切な教区行事として実施すること、また、司祭団は主体的に協働することも合わせて確認された。
- ・新任の司祭から、教区の会計システムが良く理解できないところがあり、教区本部の方で、本部事務局と小教区、小教区と幼稚園、学校との関係など、分かり易い手引きのようなものを作成して欲しいとの要望が出され、今後の検討課題とされた。

※次回、5月司祭助祭拡大会議は5月12日(火) 午前10時から、安里、教区センターで開催される。

2026年4月16日 承認：ウェイン・フランシス・バートン司教 記録：新田 選



ようこそ、大西 徳明 神父様

愛媛県松山市出身

2009年：聖パウロ修道会入会

2013年：初誓願

2022年：終生誓願

2023年：司祭叙階

2026年：4月からコザ教会の協力司祭として

赴任。よろしくお願いいたします。



2026年度那覇教区 一日黙想会

毎月第二土曜日 『詩編を通して、森から泉へ・・・』

◆ 5月 9日 復活節第6主日
詩編 66 神は私たちに いのちを与え 足をゆるぎなくささえられる。
ウェイン司教 答唱詩編：川満健勇

◆ 7月 11日 年間第15主日
詩編 65 あなたの恵みは豊作を齎しあなたの訪れるところに豊かさがあふれる。
デニス・フェルナンデス神父

◆ 9月 12日 年間第24主日
詩編 103 神は私の罪をゆるし、痛みをいやされる。
濱崎 眞実神父 答唱詩編：川満健勇



◆ 10月 10日 年間第28主日
詩編 23 神はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいの水辺に伴われる。
濱崎 眞実神父

◆ 12月 12日 待降節第3主日 ルカ 1.46～55 私は神をあがめ、神の救いに喜びおどる。
デニス・フェルナンデス神父

2027年

◆ 1月 9日 主の洗礼 イザヤ 12.2、4、5 喜びに心をはずませ、救いの泉から水をくむ。
ヨアキム・ホアイ神父

◆ 2月 13日 四旬節第1主日
詩編 25 神は貧しい人を正義に導き、謙虚な人に その道をさずけられる。
濱崎 眞実神父 答唱詩編：川満健勇

◆ 3月 13日 四旬節第5主日
詩編 130・1+2、5+6、7a+8 夜明けを待ちわびる夜回りにもまして、わたしの心は主を待ち望む。
濱崎 眞実神父

「南の光明」新誌名 公募のお知らせ

教区報「南の光明」は、これまで皆さまと共に歩みながら、信仰の恵みを分かち合う媒体として親しまれてきました。このたび、さらなる歩みの中で新しい時代にふさわしい誌名を求め、公募を行うこととなりました。これからも主に導かれながら歩んでいく教区報となるよう、皆さまの想いのこもった名称をお寄せください。

【応募方法】

■ 郵送の場合

宛先：〒900-0005 沖縄県那覇市天久1丁目8-7 カトリック文化センター 宛

以下の内容をご記入のうえ、お送りください。

① 新しい誌名(タイトル) ② その誌名に込めた思い・理由 ③ 所属教会・氏名

■ インターネットから 以下のフォームよりご応募ください。

URL:<https://forms.gle/HYuEsKLTyG8kffy16>

↓ QRコードを
読み込んでください



教区

NEWS

教会

聖なる道行きに感謝を 与那原教会

この度、聖クララ修道院で、そして与那原教会で営繕(電気・水道・敷地建物の管理)の仕事で 31年間にわたり勤めた新垣一男さんが 2026年4月の復活祭を区切りに引退されました。

1940年(昭和15年)生まれの86才。中城村の出身。クララ修道院の勤務ですが、与那原教会でもずいぶんお世話になりました。大きな行事があるときはもちろん日常の小さい作業でも手助けしてもらったり、道具を貸してもらったり、とにかく頼りになり、信頼も抜群でした。

退職される前にこれまでのことを改めて聴かせて頂きました。まず教会との関わりについては、今はクララ修道院の墓地に眠るバレンタイン神父様の世話になったことが始まりでした。

戦後81年となりますが、この戦争ですべて破壊された沖縄の地でバレンタイン神父を中心に「琉球カトリック教会建築部」が発足しそこで職を得たこと(1963年)。その10年後の建築部解散後は那覇教区営繕部に就職し、そのまた21年後(1994年)これまでの経験をかかわれて、聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会の営繕部へと移り、現在まで併せて通算63年になります。

一方、修道院に勤めるまでの各地の聖堂建設工事に携わった話は、戦後の教会の復興と発展を感じさせるものでした。

普天間・小禄教会(1970年)、名護・コザ教会(1978年) 具志川教会(1986年)、真栄原教会(1988年)。とくに名護教会建設の際は、黙想の家で宿泊して通勤されたとのこと、その他、沖縄海洋博(1975年)でのパチカン出展の展示と解体にも従事されたことなど興味深いものでした。

退職した後はこれまで関わってきた各地の教会巡りをされたいとのことでした。新垣さんにとって、教会の歴史を振り返る思い出深い「巡礼の旅」であってほしいと願っています。(松村真一)



3名の入信式が行われました 名護教会

4月4日(土) 復活徹夜祭で入信式が行われました。ステラ・マリス小野乃里佳さん、カルカッタの聖テレサ ジェンニ・デラクルス・リムさん、マキシミリアノ・マリア・コルベ 仲兼久文政さんの3名です。洗礼までの期間、マイケル神父様から一生懸命学んでこられたこの方々は、名護教会の大切な一員となりました。これから一緒にミサにあずかり、祈り、学び、信仰生活をともに過ごす中で、信仰がますます成長していきますよう祈ります。翌日の復活の主日ミサ後には、イエス様のご復活と受洗の喜びを分かち合いました。マイケル神父様からは一人ひとりにベトナムのマリア様のご像が贈られ、みなさんとても喜ばれていました。

名護教会に3人の家族が増えたことを心から神様に感謝いたします。洗礼おめでとうございます。



2026年度
那覇教区女性の会 定例研修会

日 時：5月31日(日) 14:00~16:00
場 所：カトリック安里教会

「21世紀の靈性を生きる」

～ぜひ、やってみてください。そうすればわかりますから～

講 師：中川 博道 神父(カルメル会)

5月 一日黙想会へのご案内

指導：ウェイン・フランシス・バート司教
テーマ：詩編を通して、森から泉へ…

- ・日 時 5月9日(土)
- ・会 場 聖クララ修道院 (与那原教会)
- ・受 付 09:30
- ・講 話 10:00~11:00
- ・休 憩 11:00~11:15
- ・個人黙想 11:15~12:15 (ゆるしの秘跡：希望者)
- ・昼 休 息 12:15~13:00
- ・分かち合い 13:00~14:30 (各4班に分かれて行います)
- ・掃 除 14:30~14:50 (会議室と食堂の清掃及び復旧、
終わり次第、速やかに聖堂へ移動
してください)
- ・ミ サ 15:00~16:00

※持参するもの 聖書・弁当・飲み物・会費500円
問合せ先：098-945-2354 098-945-8649
聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

心静かに、沈黙のうちに、神と深く交わることが
できますように、祈りの場としての雰囲気、
ともに大切にしよう願っています。
神は、沈黙を通して、私たちの心に語りかけて下さいます。

ペトロ神父様、Sr ルチア中村の米寿を祝し 「感謝の集いコンサート」開催

海星小学校が、カトリックの心を礎として「友愛・忍耐・探求」を教育目標に掲げ創立されたのは1964年、学園創立に奔走し、初代学園長となられたのはペトロ神父様でした。その後聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会が多くの校長先生を送り、その中でも音楽活動への指導に力を注がれたのがSr ルチア中村です。

この度お二人の米寿を祝い、またその指導に感謝を表したいと、安里教会を会場に、教えずで音楽活動を行う方たちが中心となって、感謝の集いコンサートが開催されます。皆様とともに祝いし、お二人が撒かれた種がそれぞれ芽を出して成長し、音楽を通して花ひらいた方たちの奏でる音楽に親しんでいただきたいと思います。たくさんの方のご参加をお待ちします。

日 時：2026年5月10日(日)
午後3時30分(午後3時開場)
場 所：カトリック安里教会

実行委員会代表 出口 康代(海星小学校1期生)



30分間傾聴
スペース
(30min.of Listening space)
お待ちしております!



開催日：5月17日(日)
6月21日(日)
時 間：14:00~16:00

カトリック文化センター(☎098-868-4649)



NPO 法人ぶどう園の会 訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001
住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付 月曜日~金曜日(申込、相談など)
・営業時間 8:30~17:30
・営業日 24時間365日(緊急対応含む)

~ご遺族の心をもって奉仕する~
そうてんしゃ

葬 典 社

- *創業30数年・・・。
- *皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
- *ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく
☎098-853-1059



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付